第３章　地域資源地図で見る四万十

奥四万十山の暮らし調査団では、地域調査の成果を視覚的で分かりやすく一般の方に知ってもらうため、報告書や論文などの学術的出版物に加えて地図の形で公表している。地図には、調査で判明した地域の歴史や文化の情報を記し、町歩きや地域づくりに活用してもらうことを念頭に置いて「地域資源地図」という形でまとめている。高知県内の地域資源地図は、林野庁職員で洋画家として活躍している森下嘉晴氏がまとめた絵地図を「奥四万十山の暮らし調査団」の HP「四万十町地名辞典」で PDF 公開しているほか、奥四万十山の暮らし調査団の報告書でも紹介している [1)]。第３章では、第２章で紹介した集落と関連した地域資源地図６枚を作成された経緯や地図の解説とともに掲載する。

１、くぼかわまち歩きマップ

このマップは、四万十町観光協会が四万十町窪川地域の魅力を多くの人に知ってもらおうと立ち上げた団体「四万十あちこちたんね隊」の町歩きガイドマップとして描いたものである。四万十町観光協会の皆さんに色んなお話を伺って描いていることが新しい発見の連続で、とても楽しかった。中でも、通称「へんろ通り」。人口減の影響を受け、シャッターを閉めた店が増え始めたこの頃、昭和レトロなこの商店街を活性化させようと、観光協会が PR に力を注いでいた。

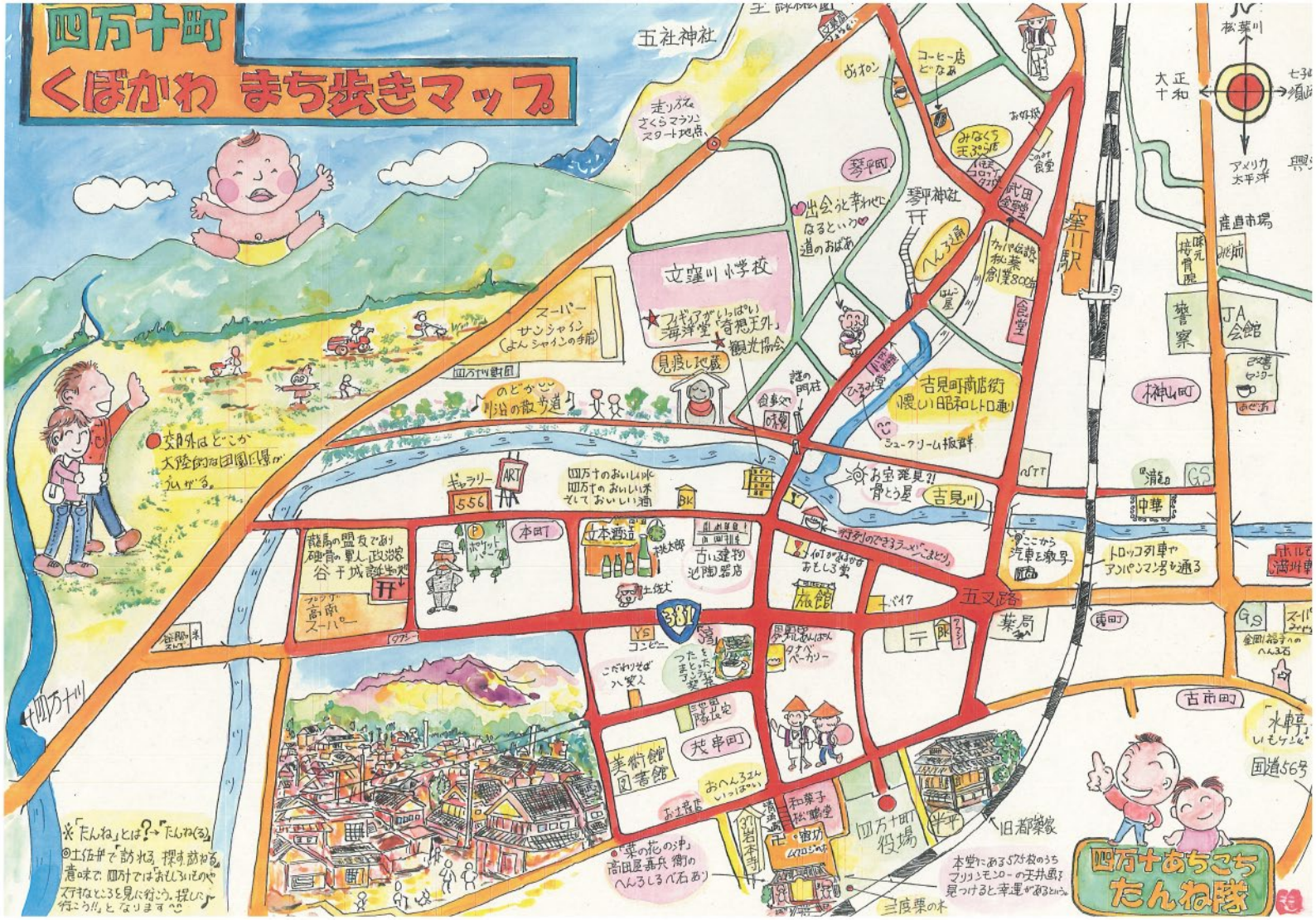
私が旧大正町（現四万十町大正地域）にきた平成の初頭は、各種商店が軒を並べ、とても活気に満ちて、「町やなぁ～」と思っていた町並みは、ひっそりとしてしまった。ここだけではないが、安い物、品揃え多いところを求めて、大型ショッピングセンターに行ったり、最近ではネット通販などに流れて、地元の店で買い物をしないと、結局は自分達の生活ができなくなる。地方にとっては大企業である役所も、競争入札で一円でも安く購入しようとするため、地元の商工業者では太刀打ちできないケースが多い。難しいことだが、地元の役所こそ、地元に貢献するように、地元商店から調達できるようにする考え方はできないものだろうか。

話がそれたが、当時、いつもこの商店街の街角にいる、「出会えば幸せになる」という知る人ぞ知る「道のおばあ」がいた。この可愛らしいおばあちゃんを町興しのシンボルにならないかなぁと密かに期待したものだ。道のおばあ。今はどうしているだろうか。

窪川中心部の本町商店街

「みなくち」の芋天は最高！「金草堂」はカッパが伝えた秘薬。「このみ食堂」の

[1)] 森下嘉晴 2018「地図編―四万十の森を歩く」『続土佐の地名を歩く』地域資料叢書 17。


四万十町
くぼかわ まち歩きマップ
五社神社
走り初め
さくらマラソン
スタート地点
ローソン
コーヒー店
どなあ
みなくら
天ぷら店
琴平町
琴平神社
出会って幸せになる
という道のおばあ
武田
金物店
ヘンろ通
窪川駅
産直市場
JA
会館
警察
立窪川小学校
フィギュアがいっぱい
海洋堂「奇想天外」
観光協会
スーパー
サンシャイン
(よんシャインの手前)
見返し地蔵
四万十町動画
のどかな
川沿の散歩道
謎の
開店
食事処
味覚
古見町商店街
懐しい昭和レトロ通り
ひろみ堂
シュークリーム振興
木神山町
交通外はどこか
大陸的な田園風景が
広がる。
ギャラリー
556
四万十のおいしい水
四万十のおいしい米
そしておいしい酒
お宝発見!!
骨とう屋
吉見川
本町
立本酒店
桃太郎
古い建物
沈陶器店
何でもあるよ
おもしろ雑貨
旅館
五叉路
ここから
汽車を撮影
トロッコ列車や
アンパンマン号を通る
中華
消防
GS
ホルモン
満州亭
高南
スーパー
ローソン
コンビニ
こだわりそば
八雲
つたや
まんじゅう
茶
ラーメン
おしゃれ
パン
クオベ
ベーカリー
郵便局
郵便
タクシー
葉局
東町
古市町
金剛石
「水車」
いもケンピ
国道56号
美術館
図書館
陸上自衛隊
茂串町
おへんろさん
いっぱい
お土産店
和葉子
松脂堂
四万十町
役場
旧都築家
本堂にある5万分の1
プリントモンローの天井画を
見つけると幸運があるという。
三度栗の木
「菜の花の沖」
高田屋嘉兵衛の
へんろしるべ石あり
岩本寺
四万十
※「たんね」とは?→「たんね(る)」
◎土佐弁で「訪ねる 探す 訪ねる」
意味で 四万十では「おもしろいものや
不思議なところを見に行こう。探しに
行こう!!」となります。
四万十あちこち
たんね隊

お好み焼きやらっきょうがとびきりうまかった。重量感のある「ひろみ堂」のシュークリーム。見るだけで楽しかった橋のたもとの古物屋。風格のあった「池田陶器店」。姿を消した店もあるが、喫茶「純」、パン屋「タナベベーカリー」、ラーメン店「駒鳥」、和菓子店「松鶴堂」などなど窪川の味を守り継承している店もたくさんある。

町は生き物。このマップを描いたわずか８年くらいの間に姿を変えながら、今に繋がっている。昭和中頃までは、窪川は中村街道と宇和島街道が交差する交通の要衝の宿場町的な位置づけで、旅館や商店、喫茶店、酒場が軒を連ね、銭湯もあり、大いに賑わっていた。

車の時代になり、当時の賑わいを取り戻すことは現実として難しいだろうが、海と山と川があり、自然に恵まれた食材、個性的な人びとが集うこの窪川。今また、郷土の偉人で幕末・明治に活躍した谷干城にスポットが当たり、新しい動きが始まっている。明るい陽光と朝霧の立ちこめる高南台地。これからも個性を持って発展してもらいたいと願う。

（森下嘉晴）

２、峠物語二

絵地図「峠物語」３部作を描くきっかけは、旧大正町から職場のある旧中村市（現四万十市中村地域）への通勤をいかに楽しむかを考えながら作っていた。毎朝毎晩の往復２時間。１日の１２分の１を過ごす峠道。単調なようでありながら、その道々にはおもしろい昔話や地名や歴史が散らばっている。

このコースでもっとも印象に残っているのは、図書館にお勤めだった山中さんから聞いた「子どもの頃、打井川から常六まで一日かけて髪を切りに行っていた」という話。幼い女の子たちが連れ立って、道草しながら、わくわくしながらこの道を歩いていたのかと思うと、その健気さや可愛らしさに思わず微笑んでしまう。また、当時の暮らしとして、徒歩が当たり前だった時代の懐かしさ。質素な暮らしながらも、慎ましく、愛情に包まれ、きちんとした節度ある生き方を営んでいたんだろうなぁと、懐かしんでしまう。

また、片魚の酒井商店の和子さん（かあねえ）にいろいろなお話を教えてもらった。気さくで元気でそしてチャーミングなおばあちゃんだった。数々の昔話や数え歌も。

数え歌♫
一番初めは一の宮
二つは日光東照宮
三は讃岐の金毘羅さん
四は信濃の善光寺
五つ出雲の大国さん
六つ村々鎮守さん
七つ成田の不動さん
八つ八幡の八幡さん
九つ高野の弘法さん
十でとうとう　信心する

尊良親王の家臣を祀る道文神社

峠物語二
打井川
馬之助神社
馬之助大明神。子とその守り神。旧3月7日大祭。パワースポット。
かっぱ館
木ビー館
打井川から常穴まで女の子は一日かけて薪を切りに行いた
大平橋
大正から佐賀まで熊野神社大祭の潮水をくみに通った道。
55
鳥打場
長命の水
炭焼元名人のおじいさんが炭焼で仕事中にすくって飲んだ岩清水があまりにもおいしかったので「長命の水」と命名して通行く人々がたのしんだ。
「生水は控えて」と書いてあるがコップもおいてくれている。
鳥打場 508m
道文神社
尊良親王の忠臣 長道文、武文兄弟を祀る。旧2月3日 大祭。
数々の伝説を残ある強い神様。
浮浪人
ひよみね
いちご
柚子
丸渕橋
常穴
大屋敷
丸山林道
地蔵川林道
三つ又
学校跡 大杉
地蔵峠 (野重峠)
住次郎
片魚
三神 大明神
樹令600年 大杉
上川口
お堂
槍の蔵
一の又林道
地蔵川三角点 509m
旧富山
地酒とおいしい
片魚口と鳥居には鬼がこの道を歩きながらおっことした大岩がある。この山道をかつての生活の道 往還道!!
仏ヶ森 681m
登山口
仏ヶ森
弘法大師がこの地をおとずれ千の谷があれば八十八所の札所を建立しようとしたが、あまのじゃくが谷をひとつ隠していただめ、999しか数えることができず、札所が建立されなかったという伝説がある。
山頂には祠と鉄塔があり まわりの山なみを見わたせる。
トンネル北口より登山道。
四国の半分を見わたせるかんじ。
山頂の祠には 阿弥陀如来さまをまっている。
尊良親王の仮御所があった王野山が現在は大野山国有林となっている。
海のみえる
佛ヶ森 林道
SK2南通
伴太郎
滝
千代の碑
千代の石碑
元弘の乱で幡多に流された尊良親王のために、母夜、二里の山道を通って食事をとどけ世話をしていた、長だてのよい器量よしの娘、千代が身を投げた淵。
大屋敷～上川口を結ぶ往還道。塩を買いに通っていた。
塩と山の幸や米を交換していた。大人について 子どもも歩いた。人の営みを結いでさた道。
国有林
中尾橋
二ノ森
米原宮跡 (尊良親王 仮御所)
川沿 平坦
バス停
仲分川
塩の道
峠道や往還道には人々の生活とつないだ あしおとや くらしの匂いが刻まれている。
ガーデンミラー
不代底森
平見
行政と植林の功労を記念する石碑 2つ並ぶ。
半鐘やぐら
湊川
であいの里 蟠川 (旧蟠川小学校跡)
中蟠川
陽光 桜と ランタナの里
県道55号・土佐～宇方線。
二つの峠を越えて四万十川と太平洋を結ぶ生活の道。
打井川～上川口の間は約31km。
変化にとんだ景色がつづく。
曲がりくねっているけれど里の人々が行きかう暮らしを支える大切な道。
落ち葉やコケもあるし急カーブも多い。あせらず急がず安全運転。
黒潮町～四万十町～四万十町をつなぐ道。
大方から打井川にかけては尊良親王にまつわる言い伝えや地名が多く残っている。
尊良親王(1310頃～1337年)とは鎌倉時代後期から南北朝時代にかけての皇族。後醍醐天皇の皇子。
元弘の乱に敗れて土佐国に流される。
土佐を脱出後 足利尊氏に対して上将軍として新田義貞と共に討伐軍を率いて戦う。
1337年 越後国 金ヶ崎の戦いで散る。
(たかながしんのう たかよししんのう)二つの読み方。
険道
浮鞭
49
上川口
有井川

余談ながら、その土地で生まれ育った人には、その人が醸し出す安定感、自信、おおらかさ、そして覚悟を感じさせる。僕みたいに風来坊であっちこっちふらふらしている者は、このオーラがない。その土地で生まれ育った人を土とし、よそから流れてきた人を風として、お互いが交わることによってその土地に風土が生まれる。敬愛する梼原町の大崎光雄さんにかけてもらった言葉である。

打井川や大屋敷に残る昔話や尊良親王にまつわる伝説を読んでこの道を辿ると、さらに臨場感が募ってくる。地名では、不思議と数字のついた名前が続く。伴太郎、住次郎、三又、喜四郎、常六。なにか因果があるのかもしれない。仏が森にはトンネル際から登山道がある。地元の方が整備した展望台があり驚いたことが懐かしい。この山の上に資材をはこんで展望台を建設する！わずか二昔（20 年）ほど前には各地域に、地元をなんとか元気付けようとありとあらゆる方法を考え、それだけの情熱をかけて人々が汗を流してしていたのだ。

県道 55 号線（大正大方線）は鳥打場と仏が森の二つの峠を越えて四万十川と太平洋を結ぶ生活の道。距離にして約 31 キロではあるが 1 時間を要する。曲がりくねった道には落ち葉もあり、苔もあり、車やバイクではヒヤヒヤすることもある。しかし、美しい山間部の景色と変化に富み、里人が行き交う生活の道をのんびりと楽しんでもらいたい。

（森下嘉晴）

３、民話の山里・打井川どきどきマップ

忘れもしない。このマップを製作している最中、東日本大震災が発生した。「日本の半分が壊れた」。あの時の衝撃は今も鮮明に残る。娘を高知市に迎えに行くのに携帯は混乱して連絡がつかない。高速は通行止め。テレビで見る津波はまるで映画のような地獄の光景で信じられなかった。平和であることが大前提だった今までの日常の暮らしが、どれだけありがたいことだったのか。そして、平和な日常はいかに脆いものであるのかを痛感し、愕然とした。

四万十町打井川。国道 381 号を南へ渡る。驚くべきはこの谷沿いの集落にあふれる民話の数々。四万十町版遠野物語の舞台である。数ある物語の中でも、最も強烈な舞台は馬之助神社。その妖気漂う雰囲気は背中がぞくっとする。早春の夕方訪れたことがあるが、馬之助の像に思わず息を飲んだことがある。あまりに哀れな物語ゆえ、馬之助くんの無念が昇華して、子ども達の守り神になっていることに救われる思いがする。馬之助の物語に影響を受け、彼の姿を想像して、20 号の油絵を馬之助神社に奉納させて頂いたこともある。

馬之助神社本殿

また、尊良親王伝説にまつわる道文神社。力比べの「ばんもち石」。首なしの地蔵におしっこをかけて遊んでいた「しむか地蔵」（しみるの意）このマップには載ってないが、打井川から家地川に越えていると、砂が上から降ってくる「すなかけ」の話。四万十市の境にある峠「鳥打場」の話。

民話の山里
打井川どきどきマップ
ようこそ!!
打井川へようこそ。
のんびり のどかな
山里は、昔話や民話が
どっさり 伝わっています。
時間を気にせず
山里さんぽ。
いつのまにやら
おとぎの国へ。
里山風景や人との出会い。
のっくり楽しんでください。
道文神社
病気平癒や縁談をはじめ、たいへんな御利益があり数々の伝説が伝わるとても優しい神様として祀られている。
ばんもち石
しむか地蔵
赤土坂
地蔵峠
(野重峠)
海が見える
うつぼ谷
馬之助かくれ岩
三室大荒神
下蛇淵
上蛇淵
うま畑
ひよみね
油蛇伝説
天狗にさらわれた少年
宮の谷
七ツ川
浄汲人 遠の宿
日の谷
河内神社
道文神社
のます水
ヤマボウシ群生林
雨降らし石
大平橋
悲恋物語「あいこい碑」
ホビー館
KAIYODO HOBBY MUSEUM
サマン慰碑
かつて暴旅の王が住んでいた
成川
土元神社
六十余社
カッパ館
にうす谷
地域づくりセンター
軽食「たにんじや」
大小権現神社
カイガイシ
診療所の森
家地川へ
加印権前社
社宝 環状石斧
中打井川集会所
関丸石塔
現在地
打井川駅
ばんもち石
河内神社
茶堂
にっちの滝
一の又
馬之助神社
馬之助神社
豊乳漂つパワースポット。
子どもの守り神である
入学祈願 海上安全
病気平癒、や学業、子どもの
夏災に御利益がある。
鳥打場
民話の舞台には
説明板があります。
はるか遠い昔話。
昭和時代の物語。
ワクワク ときどき。
天狗に会えるかも。

何より驚くのは、「天狗にさらわれた子ども」がまだ生存していること！タヌキやキツネに化かされた話は日本全国津々浦々に伝わっている。梼原町でも数多くのタヌキに化かされた話を聞いた。子どもの頃、裏山に遊びに行く時には、祖父からいつも「タヌキは眉毛の数を数えて人をだます。化かされないように、いつも眉毛を唾でかためちょけ」と言われて育った。

人がタヌキやキツネに化かされていたのは、東京オリンピックが開催された頃からぴたりとなくなる。1960 年代初め、テレビやラジオが普及し、電灯がともり、人が自然界から急速に遠ざかっていった時期と重なる。狐狸に化かされたり、狐の嫁入りを見たり、えんこうと相撲を取ったり…。半世紀という、つい近年まで、人は普通に自然界と交わりながら生活を営みながら、こうした自然界の者と交信する能力をきっと持っていたのだろう。それが、テレビや電灯を身近に置くことで、その能力が衰退してしまったのではないだろうか。

カッパにであったり、天狗に出会ったり、タヌキやキツネに化かされたり。そんな、どこかどきどきして、どこかのどかで、そしてそれはとても豊かなこと。南風に吹かれながら、この谷沿いの小道を歩いていると、どこかで思いもよらない不思議な体験が待っているかもしれない。

（森下嘉晴）

４、水と緑と平家の里・下津井散策マップ

梼原川のダム湖には浮島のような下津井の里がある。酷道 439 号のくねくね道を大正からさかのぼること 20 キロ。龍神峠から広がる湖面に突如姿を現す下津井の光景はまるでおとぎの国。天候によっては異界にきたのかと見紛うこともある。梼原町に住んでいた当時、まだふるさと林道が開通していない時はいつもこの道を通っていた。

特に雨の夜には霧がかかりとても寂しかったことも今となっては懐かしい。橋を渡るとまず下津井のシンボルめがね橋。佐川山から切り出した営林署の材木を満載した森林鉄道が行き交っていた近代の林業文化的遺産（高知県の近代化遺産）。石で組まれたその技術の高さもさることながら、山によりそって生きていた人々の暮らしを想像してみたい。

下津井の林業の歴史は、藩政時代からすでに深く刻まれ、土佐藩の御留山として厳重に管理されてきた。盗伐はもちろんのこと、熊に木の皮を裂かれたことで庄屋の職を召し上げられた事件もあったという。県境に位置することから関番所も置かれ、大変重要な働きをしていた地である。森林軌道の跡は、民家の軒先を通り、トンネルを抜けるウオーキングトレイルのルートとして下道へと続いている。

めがね橋から反時計回りに進むと仁井田橋を渡って下藤蔵の峠を越えると十和の大道へと続く。下津井の総鎮守である仁井田神社の大祭は、牛鬼が集落の中を練り歩き、田んぼを疾走し、御神酒に酔い、晩秋の風物詩となっている。

自然界においては、初夏にはヤイロチョウやブッポウソウが飛来して美しい鳴き声や姿を見せてくれることもある。また、湖面に乱舞する蛍はこの世のものとは思えないファンタスティックな光景を見せてくれる。目を見張るのは厳冬。この里を覆う雪景色は、めがね橋

水と緑と平家の里
下津井散策MAP
おときの国
せばくて、くねくねの国道439号と
大正から20kmくらいのぼってくる。
龍神峠からぱっと広がる瀬戸内に
浮かぶ オアシスのような山里。
車を停めて、時間ひとめて、ゆっくり
のんびり歩けば、いろんな発見や
すてきな出会いがまっている。
まるで、おときの国へ来たような
しあわせ気分にひたれます。
かつて
お宮山から優れた
木材を伐出していた。
さっとまた山の
再伐が必ずやってくる!
木材を伐出していた
佐川の山が谷間から
見える。
樹原へ
武将くん
へいけ君
平家落人の里。
金刀比羅宮
西村旅館
下津井関番所跡
1675年～1871年の間
役目をはたしていた。
(本来の場所は24m下の
ダムにしずんでいる)
下津井は東側山麓と伊予との回廊に
近く、また佐川山の御留山(皇室用)
吉田藩に属しており、紀藩山の密伐
多くの人が入り込む危険性に悩み
して番所可通行者に備えていた。
また、御留山の管理も重要な任務で
あり、紀州木の管理を
最重にしていた。
下腎の山に雲がかかると
雨になる。
下津井温泉
やっぱりあれになる秘湯。
能による裂き和紙の
舞台をとって在原川に
ひしげられた事件も
あった。
大昔、大きく蛇行していた
樹原川がとり残した
馬蹄形の独特の地形。
ぐるりとひと回りできる
水と緑に恵まれた自然も
人情も豊かな山里。
平家の落人伝説が
数々伝わる歴史ロマンを秘め
古来より山の民として山の恵みと
林業で栄えた時代を刻む
のどかでゆったりした時間が
静かに流れる のるやかな
とてもいいところです。
国道(西)439号線
竹之地
下落風橋
案内板
米もうんと
おいしい
お茶も
おいしい。
仁井田橋
払川
下重
おきおいおい
仁井田神社
中山城(別名フロフ城)
松楽山
西源寺
上重
水路の
清水がとても
いいかんじ
十郎へ
大道
仁井田神社
樹齢数百年の
ムクノキをはじめ
深い自然の森に
守られた厳かな神社。
パワースポット。
仁井田神社
6月の夜は、ホタルの
もう幻想的なファンタジーの
世界になる。
ほたる観賞の
遊覧船
ほたるまつり
毎年6月初旬
下津井港付近の
河原で開催
ゲンジボタルの幻想
的な光がクルの湖に
映って見事な光景!!
老舗屋敷
お茶堂
本陣
公民館
消防
住吉神社跡
3月には
下津井の
あちこちで
四国八十八箇所巡礼道
ひなまつり開催
清水城跡
山の神城跡
トンネル
湖水がきらめく
11月24、25日は仁井田神社大祭。
花とりおとり、屏風、牛鬼がねり歩く
一大イベント!!
初夏には幻の鳥
ヒメイロオウの鳴き声も
フォーキングトイル
久佐川林道 3.8km
めがね橋 1.0km
下津井を見守る
お地蔵様
波切地蔵
龍神峠
下津井一望
おまん
どこからきたんで?
見ん
なんちゃのあない
ところやけんど
ゆっくりしていきなはい
きた人は、みんなが
えいところやねぇ、と
言うてくれるけんど
若いもんが おらんなって
ひもうた。

が黒く映えて絶品の水墨画のようなコントラストを演出する。四季彩々、自然豊かな四万十町でも、下津井は自然の厚さのレベルが違うことを実感する。

この取材でわずかな時間を歩いたが、強く印象に残ったのは道ばたや畑仕事の合間にお会いした何人ものおばあちゃんたちからお聞きしたいろいろな言葉だった。「なんちゃあないところやけんど、来た人はみんな「(下津井は)えいところじゃねえ」ゆうてくれる」。「下野の山に雲がかかったら雨になる」などここでの暮らしや賑やかだった時代のこと等々。彼女たちに共通することはかわいらしさや強さや、そして下津井に対する愛情の深さだ。別れ際に「えいところと言うてもらうのは嬉しいけんど、若い人がおらんなってひもうた（しまった)」というつぶやきが切なかった。市町村合併で周辺部になるほど人口流出が加速する。町中へ、都市へと人が流れる。周辺の集落から人が減り、文化が途絶えていくと、いつしか人が集まっているはずの都市もまた限界集落となる。平家の落人以来、栄枯盛衰を紡いできた下津井の里。どうかこの先も、この里を愛し、いつまでも柔らかな光が照らし続けていくことを願ってやまない。

（森下嘉晴）

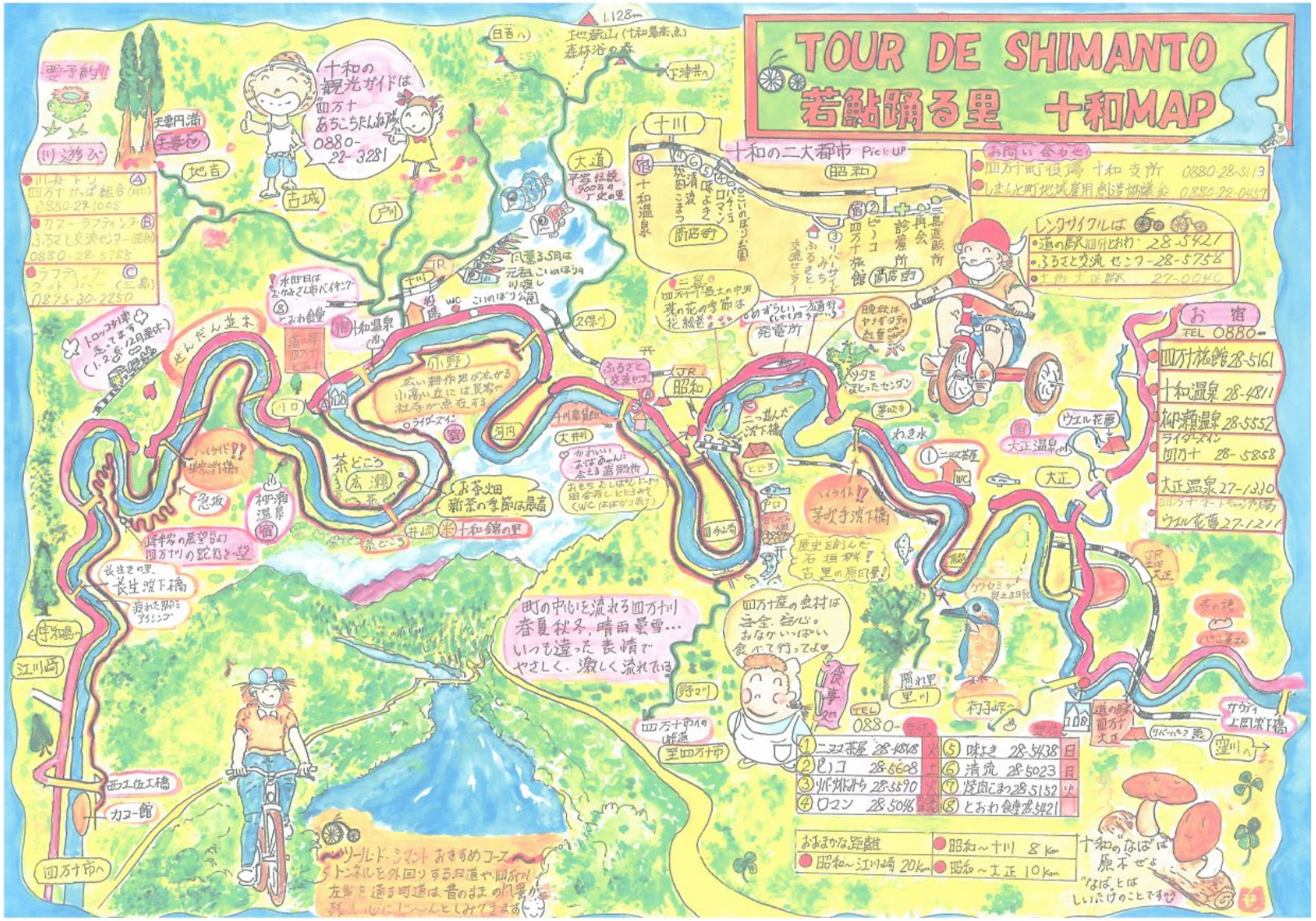
５、TOUR　DE　SIMANTO　若鮎踊る里・十和マップ

自転車で十和地域を盛り上げよう！このマップ制作のきっかけは当時の四万十町観光協会にお勤めされていた牧野さんたちの企画だった。十和は平成のはじめから中頃まで仕事をしていた愛着ある地域だ。また、マラソンに熱中していた頃だったので、当時幡多郡であった十和村のいろいろな谷の奥道の隅々までランニングして「たんね」て回っていたことも懐かしい。「とおわ」という響きもとても耳に心地よい。

十川村と昭和村が合併して誕生した十和村も再び合併して四万十町となる。四万十町の中でも旧町村ごとに気質も風習も考え方も違う。十和地域でも十川と昭和でまた違う。隣の大正とも、江川崎とも全然違う。この狭いエリアのなかでも多種多様な人々が集まり、それが一つの集団となり、様々な文化が融合する。人の営みのおもしろさ。そんなことも感じられる穏やかな里だ。

その頃、通勤には住んでいた大正から、昭和や江川崎へ今は旧道になってしまった国道321号を通っていた。大正から江川崎まで1時間かかる道のり。今、快適な道路となり隔世の感がある。二車線の新道は素晴らしく、一気に時間短縮と交通安全を飛躍させた。その光が旧道をひときわ引き立たせることになる。湾曲部に取り残された旧道にこそ、この地域の面白さや魅力が集約されている。四万十川を間近に見下ろし、里の生活感を感じ、美しい茶畑をながめる。何よりも川沿いにセンダンの大木が並ぶ風景は格別な区間のような思いだ。左岸の生活道もしっとりと落ち

ｻｲｸﾘﾝｸﾞｲﾍﾞﾝﾄで十和地域を走る自転車


TOUR DE SHIMANTO
若鮎踊る里 十和MAP
十和の観光ガイドは 四万十 あちこちたんけん隊 0880-22-3281
要予約!!
川遊び
天夢円満
天夢館
地吉
古城
戸川
大道
平家伝説 900年の歴史の里
十川
十和の二大都市 Pick UP
昭和
十和温泉
十和の二大都市
お問い合わせ
四万十町役場 十和支所 0880-28-5113
しまんと町地域雇用創造協議会 0880-22-0457
レンタサイクルは
道の駅 四万十とおわ 28-5421
ふるさと交流センター 28-5758
土佐大正駅 27-0040
お宿 TEL 0880-
四万十旅館 28-5161
十和温泉 28-4811
柳瀬温泉 28-5552
ライダーズイン 四万十 28-5858
大正温泉 27-1330
四万十オートキャンプ場
ウエル花夢 27-1211
トロッコ列車 走ってます (1.2.5.12月運休)
水郷日程 とおわ食堂
十和温泉
道の駅 四万十とおわ
めんだん並木
小野
広い耕作地が広がる 小高い丘には民家や 社寺が点在する
ライダーズイン
宿
河内
大井川
ふるさと交流センター
JR 昭和
十川温泉館
かわいいおばあちゃんが会える商販物
おもちたしばもち・ようかん 田舎寿し・ヒヒとみそ (WC おばあちゃん有り)
宿
発電所
三島 四万十川最上の中洲 菜の花の季節は 絶景
めずらしい一方通行 ちゃちな ラーメン
晩秋は ヤナギダテの紅葉
ヤナギをほどこったセンダン
茅吹き寺
二つ並んだ 沈下橋
わき水
ヒヒゴ
戸口
四万十市
ハイライト!! 茅吹き沈下橋
歴史を刻んだ 石垣が! 古里の原風景!
大正温泉
ウエル花夢
大正
JR 土佐大正
茶どころ 広瀬 茶
お茶畑 新茶の季節は最高
井崎
十和錦の里
急坂
柳瀬温泉 宿
ハイライト!!
峰神の展望台 四万十川の蛇行を一望
長生きの里 長生沈下橋
疲れた脚をアイシング
手和橋
江川崎
西土佐工橋
カヌー館
四万十市へ
町の中心を流れる四万十川 春夏秋冬, 晴雨曇雪… いつも違った表情で やさしく、激しく流れている
四万十産の食材は 安全、安心。 おなかいっぱい 食べて行ってよ♡
食事 TEL 0880-
① ニコニコ茶屋 28-4845 火
② ピコ 28-5608 土
③ リバーサイドみち 28-5590 火
④ ロコン 28-5046 金
⑤ 味とき 28-5438 日
⑥ 清流 28-5023 月
⑦ 焼肉こまつ 28-5152 火
⑧ とおわ食堂 28-5421
隠れ里 里川
村子峠
道の駅 四万十大正
リバーパル 見
カヌーイ 上岡沈下橋
窪川へ
四万十川の峠道
至四万十市
ツールド・シマント おすすめコース
トンネルを外回りする国道や、四万十川左岸を通る町道は昔のままの風景が残り、心にじーんとしみてきます
おおまかな距離
昭和～十川 8km
昭和～江川崎 20km
昭和～土正 10km
十和のなばは 原木ぜよ
"なば"とは しいたけのことです♡

着いた趣がある。どちらの道も適度に木陰があり、車の往来も少なく、より生の四万十川を感じることができる。

この風景と空気を肌で感じるには、極め付けは歩くに限るが、やはり自転車のスピードが一番似合う。大事なものほど、ゆっくりとした速度でないと見えてこない。おすすめの季節は初夏。新茶の緑がたまらなく美しい。淡いセンダンの花も咲き、四万十川には若鮎が跳ねる。おまけに元祖鯉のぼりの川渡しにも出会える。日本に生まれて良かったなぁと感じられる季節である。春夏秋冬。晴雨曇。それぞれの季節、それぞれの天候、そしてそれぞれの心模様によって見える景色も感じる風も変わる。

愛着ある十和も平成の大合併の波にさらされた。合併。いろいろな思いや考えのもと、繰り返し行われてきたが、失われる地名、周辺部からの人口流出や文化の消滅など、残念だなぁという思いを抱く。穏やかに、時に激しく流れる四万十川と共に生き続ける十和地域。これからも、四万十町の要としての存在感を示し、四万十川流域の原風景と豊かな文化を後世に繋いでいってもらいたいと願っている。

（森下嘉晴）

６、棚田百選・梼原町神在居 KANZAIKO

1995 年 9 月、全国の自治体関係者や研究者らが集まり高知県梼原町で開かれた「第一回全国棚田サミット」で、中越準一・檮原町長はあいさつした。「棚田は 21 世紀に向けての貴重財産である。生態系の保全という面からも役割は今後ますます大きくなってくる」。このサミットをきっかけに全国棚田連絡協議会や学術的研究などを行う棚田学会が発足し、全国規模の棚田保全活動が始まっていく。サミット開催のきっかけとなったのは、作家・司馬遼太郎が「万里の長城に比すべき人類の遺産」と評し、1992 年から全国初の棚田オーナー制度を導入して地域資源・観光資源としての棚田の魅力を全国に発信した同町の神在居集落であった。1999 年に農水省の棚田百選にも選ばれた神在居の棚田は、石垣が天高くそびえる「千枚田」が特徴で、棚田保全の「聖地」とも呼ばれた。

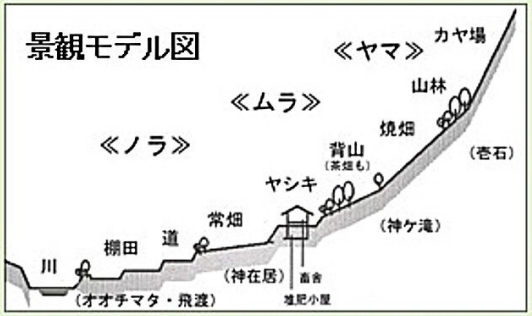
2019 年の調査で分かったことを地図とともに紹介する[2)]。神在居集落中央部の千枚田は、中世段階では石灰岩が露出する荒れ地だったと考えられる（①）。当時開発されていたのは西側・東側の迫田で、近世に入って仲洞川から短距離・長距離の用水路を引いて千枚田が形成された。また、水田開発と同時に畑・切畑・カヤ場の開発も進んだと考えられる（②③④）。明治以降は高地部にも棚田が築かれた（⑤）。この結果、斜面上に「川」「棚田」「道」「常畑」「家屋」「背山」「焼畑」「山林」「カヤ場」が展開する梼原地域に普遍的な景観が形成された。開発行為は、集落（ムラ・定住地）を中心に高地部・低地部の未開発地へ向かって田畑（ノラ・生産地）、近隣山（ヤマ・採取地）を広げようと進められ、戦後は近隣山の領域が植林化されることによって現在に至っている。神在居の歴史景観は棚田だけで構成されるものでなく、ムラ・ノラ・ヤマの領域が複合的になって成立・発展してきたのであった。

（楠瀬慶太）

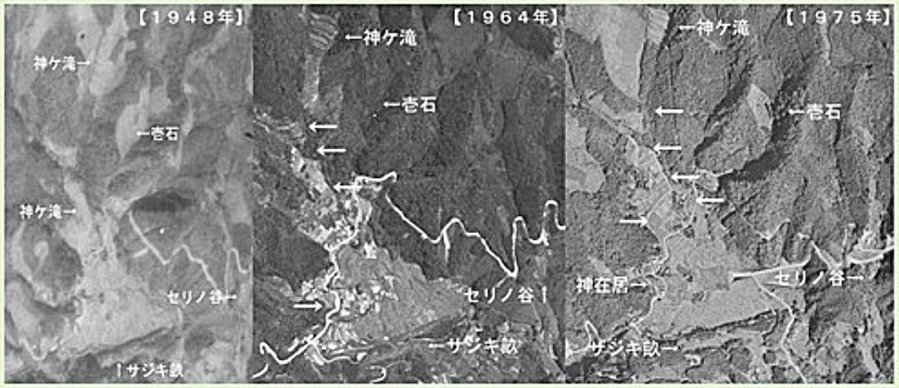
2） 楠瀬慶太「地名から探る高知県梼原町神在居の開発」『棚田学会誌』21（2020 年 6 月発行予定）。

棚田百選
梼原町神在居

棚田開発①～16C　②③④17～19C　⑤20C



航空写真に見る集落の変遷



司馬遼太郎が「農業が築き上げたピラミッド。万里の長城にも匹敵する」と評した「千枚田」

【参考文献】楠瀬慶太2020「地名から探る棚田百選・高知県梼原町神在居の開発」『棚田学会誌』21